

「德育」ロゴマーク誕生経緯

平成24年4月に発足した民間団体である佐世保德育推進会議では、市民の方に「德育」を知ってもらい、身近に感じていただく第一歩として活動のシンボルとなるデザインを募集することにしました。

佐世保市に在住するか、通勤・通学する人を対象として、その年の11月から2か月間公募したところ、小学生から60代までの方から72点の作品応募がありました。いずれも力作、德育の思いにあふれるものでしたが、佐世保らしさ、德育の具現化されたデザイン、親しみやすさなどを基準にして、佐世保德育推進会議内で厳正に審議検討し、優秀賞5点を選出しました。このうち心という文字を笑顔で表現した、当時西海学園高等学校1年生であった今里愛美莉さんの作品は、見た目にもわかりやすく、德育推進のシンボルにふさわしいことから最優秀賞として、デザイン化することに決定し、昨年3月に表彰も行つたところです。

平成25年度に入ってからは、このデザインを使って記章(バッヂ)、ステッカーを作成し、各団体等に頒布しているところです。目にしたり、手に取られた方もいらっしゃるかもしれません、今後とも皆様で可愛がっていただき、「德育」のシンボルとして大きく育んでいただきますようお願い申し上げます。



優秀賞の皆さんと朝長市長、木村会長

袋井市の德育推進「袋井モデル」

佐世保市が德育に取り組む以前から、全国で唯一德育によるまちづくりに取り組んでいるのが、静岡県の中西部に位置する袋井市です。昔から東海道の宿場町として栄え、東海道新幹線、東海道本線、東名高速道路、国道1号線など主要鉄道や道路が横断する交通条件に恵まれたほぼ日本の中央部に位置する人口約8万7,000人の市です。

袋井市では、平成17年の市町合併を機に市の教育理念を「心ゆたかな人づくり」と定めています。しかしながら理念実現のためには、昨今の道徳性や規範意識の欠如といった社会的背景を看過できないことから、検討を重ねた結果、「德育」を進めることとなりました。そこでは、「おもてなしの心」と「感謝の心」をキーワードとし、目指す徳のある市民像を、「思いやりのある心」「自分を律する心」「地域や自然を愛する心」などを備えた「人のために何かができる、心ゆたかな人」としています。そして地域・家庭・学校の役割を明確にして、それぞれの立場でどんな活動ができるのか検討し、「一徳運動」を開始しました。この地域・家庭・学校が、「おもてなしの心」と「感謝の心」を意識して展開する「一徳運動」を德育推進「袋井モデル」として、現在も積極的に実践されています。

私もひとこと「德育」について

佐世保德育推進会議では、多種多様の立場から29人が集い、それぞれができることをできる範囲で德育に取り組んでいます。その一環として、「德育の日」(平成25年10(とく)月19(いく)日)に開催したのが「德育推進フォーラム」です。前ページの朝長市長と木村会長の対談は、その中で行われたものですが、紙幅の都合もあり、話し合われた内容の3分の1程度の掲載となっています。そのため、「自分の身を燃やして周りを照らすろうそくの火」「現代に氾濫する情報のシャワー」「ケータイを持ったサル」といった印象的なキーワードにまつわる話や、フロアからのご意見はすべて割愛せざるを得ませんでした。佐世保德育推進会議の事務局では全文の記録を録っておりますので、関心がおありの方は連絡のほどお願い申し上げます。なお、下記にはフォーラムに参加された皆様からいただいた感想のうち、一部を掲載しております。

- 学校、企業、行政といった子どもから大人までが様々な場所・環境で德育を進めていくことは、社会生活を送るうえでとても重要なことであり、きっかけ・動機づけになるので市民全体で推進して欲しい
- 市が進める一徳運動をトップが話される機会に参加でき有意義だった
- 大村市民だが、佐世保市の将来が素晴らしいものになるのではとの期待感を持った
- 市長は、子どもたちを徳のある人間に育てたいと素晴らしい取り組みをされておられるが、その手本となる大人社会の德育の推進がもっと必要と思う